

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 124号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期20年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4000日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は242名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



市民請願採択により、サンシティ整備は 2029年以降に先送り

今朝の駅立ちは、市議会最終日の開催であり市長提出議案と市民請願の合計19本の議案の午前10時からの本会場での採決に臨むため、中止をした。

今6月議会は4月の市議選後最初の定例市議会となり、私は今期から4名の無所属議員で構成する新会派「こしがや無所属の会」を結成して議会対応をすることになった。

また民生常任委員長や、越谷・松伏水道議会の議員に選出された。今議会の最大の焦点となったのは市民請願「今後の越谷サンシティのあり方の関する方針(仮称)」の議案で、自民党、公明党、刷新クラブ、維新の会等が賛成したため採択されたことである。越谷サンシティは5年ほど前から公共的エリアと商業エリアの一

体的整備を目指して、16歳以上2000人に対して市民アンケートの実施や広場・公共空間のあり方等に関する市民ワークショップの開催や公募型マーケットサウンディング(施設整備全般について広く民間事業者のアイデア等を収集して、事業体の主体になってもらう)を実施して来た。

これらの取り組みを通して、サンシティ整備基本構想や基本計画が策定されて来た。

しかし、昨年ロシアのウクライナへの軍事進攻の影響等もあり、原油高や物価高騰、資材費や人件費の高騰に直面したため計画を1年間延期することも決定した。

更に、当初の計画であった全面建て替え(公共エリアと商業エリアを一体的に)を前提とした公共エリア(市民ホールや展示会場等)の事業費を試算したところ市の負担額は390億円となった。しかも今後市の公共施設の建て替え(市立病院や給食センター等)が目白押しであり、財政負担の観点から当初の計画を一部変更して全面建て替えではなく、リノベーションで対応し、事業費を220億円まで縮減することを、本年市は5月に発表した。

ところが、この発表を知った市民からあまりに突然の変更であり、市民への事前説明が極めて不十分として市民請願が提出された。

請願者は、6月22日に開催された所管の総務常任委員会に出席して請願趣旨を述べたが、第1に(仮称)今後のサンシティのあり方の関する方針を審議会の答申を通して策定すること。第2にこの方針を議会での議決事項とすることを求めた。

私は反対したのだが、すでに市ではサンシティ整備基本構想や計画が策定されており、さらに請願者が主張する整備方針を策定するとすればどんな方針となるのかは不明であった事。

また審議会の構成やスケジュールや財政問題が不明な事。更に仮にこの方針が策定したとしても議決事項にするならば、いわば上位計画である基本構想や基本計画は議決事項でないため、最下位計画を議決行為とする事になり、そんな事の前例は越谷市はもとより、全国の議会でも例がない事態となってしまう。これは市長の行政執行権への議会権限の著しい越権行為である、と判断したためだ。

ただ、市の説明に関して、これまで整備計画策定に向けて協議して来た市民への対応が不十分との指摘には賛意を示すものだ。

(裏へ)

しかし、当初の2029年供用開始のリノベーションでの市民ホールの整備は大幅な延長を余儀なくされる事になった事は大きなマイナスだ。同時に請願者が再三指摘した“賑わいの創出”が欠如しているとの意見には異論がある。それはすでに越谷市をはじめ日本は衰退期に入っており、成長神話を前提として町づくりへの期待を一切捨てなければならない。

過去の幻想に囚われているかぎり大きな時代の変化を認知することが出来ないことは明白であり、次世代への選択肢を狭める事にもなってしまう。

これは市の考え方でも同様であり、なにやらきらびやかなビルやオフィスが林立し、おしゃれな飲食街を構想することから脱却する必要性が何よりも問われている。

(6月27日・火曜日)

15年ぶりの越谷・松伏水道議会

への出席



昨日の越谷6月定例市議会が閉会した次の日、午前10時から越谷

にある越谷・松伏水道企業団の4階にある本議場に出向いた。

前期の4年間は会派に所属していなかったため、越谷市議会以外の広域議会への選出は対象外となっていた。

またその前の期には会派“自治みらい”に所属していたが東埼玉資源環境組合議会の議員に選出されていた。

このため、水道議会議員には15年ぶりとなったため、浦島太郎の様な心境で議会の進行に臨んだ。

改選後最初の議会のため、越谷市議会と同様に正副議長の選任や所属常任委員会の所属や本会議場での議席の確定等殆どが議会の体制を確立するための全員協議会、議会運営委員会、そして本会議場での決定と手続きが続いた。

水道管理者からの議案の提出もなく、一般質問の希望もなかったのだが、それでも越谷市議会とは同然違う議会のため、それなりの緊張感にも包まれた一日だった。なお、9月議会は9月29日(金)が予定されており、決算特別委員会が開催される。(6月28日・水曜日)

動画“てくてく散歩”のロケーション

今朝の駅立ちは、せんげん台駅西口で通常通り午前5時20分頃には開始した。午前4時に起床して午前5時前には自宅を出発、駅に到着して街宣用具の搬出、設置の後、駅前周辺の掃除をして市政レポートの配布に取り組むのは選挙以前から20年間のルーチンワークとなっている。

ただ一つ違うのは、チーム白川のメンバーである吉田理子さんが一緒に行動してもらっている事だ。この日も午前5時30分から市政レポートを配布して頂いた。そのためか馴染みの市民の方からは時々秘書のかたですか、とか奥さんですか、と尋ねられる。これまで選挙中も私一人での駅立ちを20年間も続けているので、市民が目にする駅前の風景には私一人しか映らないのは当然だろう。

午前5時30分からの行動開始なのだから、吉田さんも起床は午前4時過ぎだそうで、家族の食事や身の回りの世話をやったうえで会社の経営者であり、さらに主権者運動に取り組むのだから時間も体力もいくらあっても足りないと良く口にされている。

この事が20年間にわたる朝の通常行動と唯一違っていることだし、実に心強い事でもある。午前8時30分過ぎまでの活動が終了して妻が迎えに来た車に街宣用具を搬入するのルーチンとなっているが、その意味では妻も私と行動をともにするのは20年間の時間の使い方の一致が求められて来た。

この日は、選挙で多少中断していた“白川ひでつぐの一步、二歩、散歩”の動画撮影のため午後から袋山のある久伊豆神社と小さなパン屋さんの紹介に取り組んだ。ロケーションには、吉田さんとともに更に撮影スタッフ1人が年休をとって対応して頂いた。

市議会議員選挙の2年ほど前から、YouTubeでの配信に注力して来たが、この様な撮影スタッフや編集担当、インタビュー担当、企画等それなりのチームが編成出来ないと、当然私一人では困難だ。しかし、同時に私が何を配信したいのか、何を伝えたいのかが明確であることが常にスタッフからは要求され続けている。それは撮影の技術的なことではなく、社会や時代がどう変化しており、それは市民の生活や暮らしぶりにどう表れているのか、更にとどの様な切り口から伝えようとしているのか課題となっているからだ。(7月4日・火曜日)